



国語

出題方針・ねらい

- ◆文章のジャンルに左右されない、基礎的な読解力を試す。
- ◆思考力・判断力を試す問題も設けて、本文に対する深い理解を試す。

2026年度入試出題内容

	第1回	第2回	第3回
漢字書き取り	8問	8問	8問
説明的な文章の読解	石田光規『「友だち」から自由になる』 (光文社・2022年) 全体7,000字(本文4,200字) 論述なし	佐々木敦『「書くこと」の哲学』 (講談社・2025年) 全体6,600字(本文3,900字) 論述1題	神野直彦『財政と民主主義』 (岩波書店・2024年) 全体6,200字(本文4,000字) 論述1題
文学的な文章の読解	中山聖子『この手はいつか』 (文研出版・2025年) 全体8,000字(本文4,800字) 論述なし	村山由佳『雪のなまえ』 (徳間書店・2020年) 全体7,700字(本文4,800字) 論述1題	安部若菜『私の居場所はどこじゃない』 (角川書店・2024年) 全体7,000字(本文4,700字) 論述1題

2026年度入試結果【国語】

		第1回	第2回	第3回
受験者	最高点	94	93	96
	最低点	26	24	15
	平均点	71.6	63.3	63.2
合格者	最高点	94	93	96
	最低点	57	30	52
	平均点	76.8	70.0	73.0

第1回		
点数	受験者	合格者
96～100		
91～95	6	6
86～90	33	24
81～85	87	67
76～80	138	96
71～75	122	62
66～70	129	46
61～65	72	16
56～60	47	6
51～55	25	
46～50	10	
41～45	8	
36～40	2	
31～35	1	
26～30	1	
21～25		
～20		
合計	681	323

第2回	
受験者	合格者
2	2
13	9
22	19
46	34
66	47
78	45
85	29
72	16
54	13
36	7
19	
13	
5	
2	1
2	
515	222

第3回	
受験者	合格者
1	1
2	2
12	4
26	14
36	6
40	5
37	5
34	2
31	3
22	
11	
4	
2	
1	
259	42

大問別分析

「正答率・問いのねらい・講評」を本校ホームページに掲載しています。

中学入試 第2回 国語 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	78%	82%	〈書き取り〉小学校4～6年生で習う漢字が書けるかどうかを試す。Bは細部を間違える子がいるであろう「巖」や似た字を書いてしまう子がいるであろう「揮」、Cは「術中」という言葉を語彙に持っていない子がいるであろうというくらいで、いずれも基本問題。「探検」は「探険」も正解とされている。	全体的に予想どおりの結果だった。⑥「術中」はやはり語彙にあるか否かの差が出た。 ②「発揮」の「揮」を「輝」と書いてしまう受験生が予想よりも少なかったことが喜ばしい。
	②	91%	92%		
	③	87%	93%		
	④	92%	95%		
	⑤	84%	84%		
	⑥	34%	44%		
	⑦	91%	95%		
	⑧	96%	96%		
	問一	71%	78%	〈記号〉筆者が挙げている具体例を確認する基本問題。	身近な「地域」へ参加していく姿勢について述べた文章。全体として簡単な分、一問一問をしっかりと正解できるかどうか、合否を分けた。 特に、問三と問七で合格者と全体の正答率
	問二	88%	89%	〈記号〉ここまでの本文の内容（全体の3分の1）をまとめた一文に傍線を引いて、内容を正しく理解できたかどうかを確認する。	

今年度の入試を振り返って

① 合格への**第一歩** = 上・中位層と下位層で正答率の差がついた問い

設問	正解	多かった誤答	誤答の原因
第1回〔二〕問三 傍線部分の具体的な説明	イ	エ	直前の段落、「自由」＝個人化により誰ともつながらなくてもよいという部分を中心とした言い換えであることに気付けたかが鍵。
第2回〔三〕問九(D)※思考力問題 登場人物の認識を整理する問題	ア	イ	「一人で黙って勝手に決める」と思っているが、解決しているとは思っていない。「順応する能力」についての発言を拾えたかが鍵。
第3回〔二〕問二 コロナパンデミックが人々に与えた影響	エ	イ	「一利一害」「死」の自覚 「生」の意義」という言葉に着目。 集団での課題解決から個の尊厳への変化は読み取れない。

今年度の入試を振り返って

② 合格へのもう一歩 = 上位層と中・下位層で正答率の差がついた問い

設問	正解	多かった誤答	誤答の原因
第1回〔三〕問八(イ)※思考力問題 主人公の行動と適応機制の組み合わせ	×	○	謝るのが自然な状況ではあるが「謝りたくない」と真潮は思っているため、“あえて”反対の行動をとる「反動形成」とは言えない。
第1回〔三〕問六 泣きそうになるのを我慢した雪乃の説明	エ	ア	母が我慢しているから泣かないわけではない。アが正解に見えると他の選択肢が間違いに感じやすいため、全ての選択肢を吟味する習慣を。
第2回〔三〕問四 「視界は明るかった」の理由	イ	ア	「苦い気持ち」と「視界は明るかった」がそれぞれ何を指しているかをつかむことが重要。「すぐに差を埋めることができる」とまでは読み取れない。

受験生へのメッセージ

①漢字書き取り ➡ 皆できてあまり差が付かない

👉 苦手な人は**基礎的な書き取り練習**を！

②論述問題 ➡ 約半数の人が△半分に集まる

👉 **要素を整理**して作文⇒得点を伸ばすチャンス！

③選択問題 ➡ 1問でも多く正解することが合格への第一歩

👉 **選択肢の違い**を見極めよう！

👉 **自分の答え**を頭で作ってから選択肢を読もう！